

ガバナー月信

Vol.4

2002.10.1

TO CLUB PRESIDENTS AND SECRETARIES

国際ロータリー第2840地区

2002-2003年度

ガバナー 矢野 亨

376-0011 群馬県桐生市相生町5丁目493

社会福祉法人希望の家 - のぞみの苑内

TEL 0277-55-5288 FAX 0277-55-5289

yano.gov@kibounoie.or.jp

<http://www.kibounoie.or.jp/gov>

題字 矢野 亨

己所不欲
勿施于人



10月は職業奉仕並びに米山月間です

CONTENTS

ガバナーメッセージ	2
ガバナーノミニー決定	5
職業奉仕月間にちなんで	6
米山月間によせて	7
学友会について	8
地区大会ごあんない	9
I・M開催報告	10
委員会報告	12
若き日の貴重な体験	14
新会員紹介・訃報	15・16
出席報告、10月の予定	18



ガバナーメッセージ



ガバナーメッセージ
「職業奉仕並びに米山月間によせて」

2840地区

ガバナー 矢野 亨

10月は職業奉仕並びに米山月間で
す。

職業奉仕はロータリーの根幹をなすもの
だと言われております。「職業を通して
奉仕活動を行う」という表現には、やや
もすると具体性が乏しく、抽象化過ぎ
るという誹りを招きかねません。要は職
業の品位を保ち、最高度の倫理規準を推
進すること、並びに顧客、同業者、従業
員から仕入業者等に至る迄公正に奉仕を
実践し、自己研鑽につとめなさいとい
うことに尽きるようです。

ここで職業奉仕の歴史的変遷を簡単に
振り返ってみましょう。

1908年、ロータリーに入った
Arthur Frederic Sheldonがロータ
リー活動の根底には「奉仕」の概念のあ
ることに気づきました。彼が考えた He

profits most who service best.
即ち「奉仕する者は最も報われる」が、
職業奉仕とはこうあるべきだという精神
を、よく表現していると言えます。

この言葉は一方で「儲けようと思えば
先ず奉仕しなさい」という俗なとも思え
る言葉にも連なりますが、こちらの方が
より判り易い表現になっております。自
己の利益追求と奉仕（社会奉仕）は、正
に二律背反の事象で、日常の自己の職業
上利益遂求の中で、奉仕活動というもの
を、どこで線を引くかが問題となりま
す。この決定は当然のことながら言うは
易く、行うは難しいものがあります。

しかし、これによって、**職業人として
誇りをもったロータリー哲学**が打ち立
てられ、「**職業奉仕**」Vocational
Serviceが成立いたします。

題字に寄せて 矢野 亨

"己の欲せざる所を、人に施すこと勿れ" 論語・顔淵の有名な言葉である。キリストの山上の垂訓 "自分がして貰いたいと思うことを人にして差し上げなさい" この Golden Rule は西欧人の処世訓ともなっている。後者の Service に対する積極性に対して、論語は如何にも消極的とも言える。日本人の奉仕に対する積極性が弱いのは、ここに原因の一つがあるかも知れない。ロータリアンの奮起をのぞみたいものである。

1909年には、**ミネアポリスロータリークラブの会長Frank Collins**が素晴らしい言葉を、この「職業奉仕」にプレゼントしてくれます。それは、「**Service Above Self**」即ち「**超私の奉仕**」という言葉であります。コリンズは当初 Service not selfと言ったようですが、これは「没私の奉仕」とでも訳しましょうか、これは少し強過ぎます。丁度 Above Selfが妥当だと思います。

この頃は、まだロータリーに「社会奉仕」や「国際奉仕」と言った言葉が確立されて無い頃の話であります。

更にこの職業奉仕にもう一つ "おまけ" がつきます。それは**ハーバート・テラーの四つのテスト**であります。1932年頃、彼は潰れそうであった赤字アルミ食器会社を従業員一人一人にこの四つのテストを徹底させることによって社業を好転させ黒字会社として再建させます。やがて、彼が1954年RI会長に就任した時、この標語を掲げロータリアンの**実践倫理座右銘**としたのであります。しかし、私は個人的にはこの訳には感心しません。それは日本の言葉ではないからです。私は四つのテストの精神は素晴らしいものと納得しておりますので、皆と唱和しておりますが正直な話として、今一つ釈然としないものが心の底に残渣として残っていることは事実です。

ともあれ、**職業奉仕の哲学の源泉は先ずロータリーの綱領に在ることを自覚致しましょう。**

又、本月10月は米山月間でもあります。故米山梅吉翁はポール・ハリスと同年代であり、日本にロータリーを創った功績者でもあります。この米山翁が晩年 "アジアのロータリーを" と念願した遺志をついで出来たこの米山奨学金は、文字通り日本独自のものであります。東南アジアを始め多くの諸外国から日本に学ぶ若者に対してこの基金は長年大きな支援をして参りました。

その選考についての改善も近く計られるようですので、更に一層その効果が期待出来ると思います。会員一同一層の御協力、ご支援をお願いしたいと思います。

ロータリーの奉仕と地域福祉 10月号 (其の三)

前号でポールハリスと同世代で、しかもロータリーの発祥と同じシカゴで、驚くべき献身的な社会奉仕活動をハルハウスというセツルメント運動の拠点を中心として展開した、**ジェーンアダムス**の事蹟を紹介しましたが、一方、ポールハリスの起こしたロータリークラブも、その後目覚ましい発展を遂げ、殆どの世界に拡がり、奉仕団体としての大きな成果を挙げて来ました。今にして思えば、ポールハリスの偉業は、ジェーンアダムス以上のものがあるような気さえするのです。

しかし残念ながらポールハリスは、**ノーベル平和賞は貰っていない**。それは何故か？そのターニングポイントは決議23 - 34にあったように思えてな



らないのです。

決議 23 - 34 によって、ロータリーの実践的社會奉仕活動に著しい制限を加えたことによって、**以後のロータリーの社會奉仕活動が萎縮**してしまったのではないかと勘ぐっているのです。それがなければ、ポールハリスも当然のことながらノーベル平和賞を貰っていたのではないかと考えるのです。

その経緯については、7月号のガバナ一月信に述べてありますが、もう一度簡単に述べてみます。オハイオ州トレードロータリークラブが、町で車椅子の身体障害児が学校にも行ってない現状を救うために、施設を作ったのですが、エリリアロータリークラブの**エドガーアレン**は、この運動を糾合して、国際的な**身体障害児協会を誕生**させるに至ったのです。

余談ですが、ポールハリスは後にこの国際身体障害児協会の会長になったはずですが。

このことは、**アメリカの福祉行政の歴史に輝かしい一ページ**となったのですが、当時のロータリーでは、これが行き過ぎであるというロータリーの理論派による厳しい批判が起ったのです。

この「理論派」と「実践派」との激しい大論争が行われたのですが、一旦は、1922年に17号決議として、RIは、この身体障害児援助活動に対する人道的活動を称揚し、この運動が各クラブの地域社会における奉仕の機会を提供するものであることを決議したのです。しかし、**理事会の態度は二転、三転し**、結

論として、**1923年のセントルイス大会において**、両者に対して玉虫色とは言うものの、**理論派有利の決議 23 - 34**となるのです。実践派は敗れ、その一部は退会したようです。

いまここに、決議 23 - 34 の全文は省略しますが、(手続き要覧 2001年度版、P. 77) これは、出来てから4度の小改訂(1926 - 6、1936 - 15、1951 - 9、1966 - 49)を経たものでありますが、原文から見て字句の改訂程度でその本質は余り変わりません

さて、この**決議 23 - 34 の解釈の要点を、P.G 田中 毅氏の文章から引用してみます。**

*)ロータリークラブとは、奉仕哲学を学ぶ場はクラブの例会であり、奉仕の実践活動は原則としてロータリアン個人に委ねられているが、これはクラブレベルの団体奉仕活動を全て否定するものではない。

*)ロータリー哲学は実践哲学であり、実践の伴わないロータリー運動は存在せず、ロータリアン個人による実践とともに、クラブによる団体奉仕の実践も必要であるが、団体奉仕には次の条件をつける。(単年度完結等各種の制限があり、クラブによる団体奉仕活動の理念もまた誠に曖昧でありました。)

*)ロータリークラブの社會奉仕活動選択に対する条件として、ロータリークラブの目的は社會奉仕活動の実践を行うことでなくして、社會奉仕活動の必要性を会員に自覚させることにある。等々。

これによって、以後のロータリーの社会奉仕活動に、実践的奉仕活動の芽が摘み取られてしまったような気がしてしかたがないのです。

これでは、私のささやかな願いである、ポールハリスにノーベル平和賞をと言う思いは、雲散霧消してしまったのであります。

決議 23 - 34 その後の展望

1923年のこの決議については、ロータリークラブが次第に発展し、肥大して来るにつれて、ご存知のようにロータリー財団の活動を始め、国際奉仕活動が華やかな活動を実践してきます。社会奉仕の面でも、当然のことながら地域社会からのロータリーに寄せる期待も又大となってまいります。

ロータリークラブが地域社会に奉仕活動を展開しようとする、どうしてもこの決議 23 - 34 が手枷、足枷になるようです。RI では、その後決議 23 - 34 に

ついて、廃止という動きすらあったようですが、反対もあって、現在は残っております。その代わり、1992年の改訂では、286号決議として、今までの考え方の方向転換ともいえる、思い切った新しい社会奉仕の指針が出されました。

ロータリーとしては、これから新しい時代の社会奉仕活動に積極的に取り組むことが求められます。

わが国における社会奉仕活動の現状に目を向けると、国は豊かではありますが、奉仕と対極にある地域福祉は、制度の面でも、福祉に対する国民の心構えの面でも、西欧諸国と比べて残念ながら優れているとは言えないのであります。むしろ遅れていると言った方がよいのではないのでしょうか？

次号11月号からは、福祉を中心とした我が国の社会保障の現状について述べてみたいと思います。

以下次号 -

2002 - 2003年度 ガバナーノミニー

山崎 學(やまざき まなぶ)君に決定

国際ロータリー2840地区 ガバナー 矢野 亨

去る2002年8月18日(日)、桐生市・ガバナー事務所会議室にて開催された国際ロータリー第2840地区ガバナー指名委員会において、高崎南ロータリークラブ会員 山崎 學君が2002 - 03年度、当地区ガバナー・ノミニーとして指名・推薦されました。

尚、山崎 學君は高崎南ロータリークラブより2002年7月10日付でガバナー・ノミニー候補として推薦されましたが、2002年9月6日(金)の指定期日までに対立候補の推薦がありませんでしたので、指名委員会の指名通り決定した事を地区内全クラブに宣言致します。



強調月間に因んで



「職業奉仕月間にちなんで」

R I 2 8 4 0 地区

職業奉仕委員会 委員長 八木橋祥价（桐生 R C）

10月はロータリー職業奉仕月間でありませ

ず。職業奉仕はロータリークラブ設立のルーツといわれています。創立者であるポール・ハリスの元来の意図は実業家や専門職者の交際の輪を形成することでした。殆ど全てのロータリー会員の入会決定の指針でもある職業分類基本方針は、各クラブの会員の事業及び専門職務がその地域の事業や専門職を偏らずに反映するものとなるよう定めています。

職業奉仕は次のことに焦点を置いています。あらゆる職務において高度の道徳的水準を守り、推進する。

これには雇用主、従業員、同僚、競争相手、そして一般の人々への公平な対応も含まれる。

自分自身もしくはロータリアンが従事する職業のみならずあらゆる有用な職業の重要性を認識する。

会員が職業上の能力を、社会の問題を解決したり、地域社会のニーズに対応するのに役立てる。

個人レベルからクラブ、職場、地域社会のレベルに至るまで、職業奉仕の範囲は幅広いものです。ここで会員の役割は、ロータリーの基本方針に沿って個人としても、専門職に従事する職業人としても常に品位をもって振る舞い、ロータリークラブによって展開される奉仕事業に尽力することです。一方でクラブの果たすべき役割はあらゆる職業分類に属

する会員が職業上の能力を生かせるような事業の計画を通じて地域内の雇用機会増大、公平な職場環境の育成、職業に関する情報の増加奨励することです。

これらの役割が適切に果たされたならば、地域社会は多くの利益を得ることになります。ロータリアンである雇主や従業員が道徳的に行動し、それが同僚、競争相手、そして顧客にも好ましい影響を与え、又ロータリアン以外の人々を援助するクラブ・プロジェクトを通してロータリーの理念になじみの薄い人たちにも良い影響を及ぼすことになります。

10月中、ロータリアンはロータリーの本質的な要素に焦点を絞るよう奨励されます。クラブ内、地区内での職業奉仕に関する討議はロータリアンの倫理観や職業的能力を伸ばすだけでなく地元地域社会の職業能力を開発することにもなります。職業奉仕月間はロータリーでの議論から地域プロジェクトを表彰することなど幅広い年間の職業奉仕活動を開始する良い機会です。

強調月間に因んで



米山月間によせて

R I 第 2 8 4 0 地区
米山奨学委員会
委員長 **横山公一**
(沼田 R C)

いつも米山奨学事業に御協力いただき誠にありがとうございます。

さて、米山奨学事業も時代の要請に因って日々変化発展しております。日本や世界を取り巻く社会構造の変化の中、厳しい経済環境にも関わらず、ロータリアンの国際事業として日本で勉学・研修に励んでいる米山奨学生への援助は続けられております。一方、日本とアジアを始めとする国々との " 掛け橋 " となる、新世代への育成はますますその重要性を増しております。今年度は1000名の奨学生に対して、奨学金を支給いたしております。これによって、米山記念奨学会が設立されて以来、奨学金支給者は一万人を超え、国籍別では95ヶ国となりました。日本で学んだ学問や技術が、米山奨学生によって人類の発展と平和に貢献されることを期待しております。

日本のロータリアンが自発的に参加し、ロータリーの国際奉仕を身近に感じられる奨学事業になりつつあると思っております。

2002年4月より実施されました大学推薦制度は順調にスタートいたしました。それによって、日本での研究・勉学目的も明確にして、留学する優秀な奨学生の支援も一段と進みました。同時に、米山奨学事業の特徴であり、奨学事業の成否の鍵となる、カウンセラー制度に対しても期待が高まってきております。

奨学生一人一人に対するケアをより高めるために、カウンセラー研修や学習活動を充実させなくてはならないと思っております。

幸い、今年度はモデル地区を選び、カウンセラー研修会を実施していただけるそうです。多いに期待しております。

ロータリー米山記念奨学会では、本年度4つの重点目標を掲げていただきました。

まず、ロータリーの奉仕の精神に基づいた国際理解と親善の推進。

2番目は、学業・異文化理解・コミュニケーション能力などを備えた優秀な奨学生・研究者の支援。

3番目は、母国に限らず国際社会で活躍し、世界平和の創造と維持に貢献できる奨学生の育成。

4番目は、わが国留学生事業の目標である「知的国際貢献」への強力と貢献。

以上の4点であります。

当地区の米山奨学委員会も重点目標に因って、これらの期待に応えられる奨学生を選考して行きたいと思っております。

そして、大学推薦制度をさらに充実して行くため、大学の留学生担当者や指導教員、国際交流担当との協力関係を強化していきたいと考えております。

また、同時に取り組んできた奨学事業の目的・使命の再確認を委員会としても検討して行きたいと思っております。

そこでロータリアンの皆様に「米山月間によせて」、厚かましくもお願い申し上げます。昨年度も前年を上回る募金額を集めていただきまして、本当にありがとうございました。御礼申し上げます。本年も経済環境の悪い中、大変なこととは思いますが、是非、御協力を賜りたくお願いいたします。各クラブ様共、目標を決めていただき、それに向かって募金活動をしていただければと、誠に幸いです。

色々、申し上げましたが、ロータリーの友情に免じて宜しくお願い申し上げます。



学友会について

米山学友会 会長 大路潔江

皆さん、こんにちは。まず、自己紹介をさせていただきます。

私は、大路潔江(元 路 潔)と申します。現在2840地区奨学生学友会の会長をしています。97年4月から、98年3月までの1年間、米山奨学生として、大変お世話になりました。世話クラブは、高崎東ロータリークラブでした。

私事で恐縮ですが、私の姉も群大医学部に留学していたとき、米山奨学生でした。中国にいたとき、姉からいろいろな話を聞かせてもらい、感激と憧れを覚えたものです。その後、私自身留学生となり、奨学金の申請をしましたが、選考の結果、運良く文部省の奨学生と米山奨学生の両方とも1位で合格することができました。保証人の先生に相談したところ、米山奨学生になった方がいいのではないかと勧められました。

そのお陰で、世話クラブの皆様を始め、大勢のロータリアンの皆様と知り合いになることができ、とても光栄に思っております。

私のカウンセラーをしてくださった広田様は、皆様ご承知のとおり、地球環境の保護に非常に高い関心を持っておられ、10年以上、砂漠での植樹活動や、東南アジアでの学校建設に心温まる援助活動をされております。このようなロータリアンにカウンセラーになっていただいたことを私自身の大きな誇りと思っています。ロータリアンの皆様は、お仕事では、もちろんプロです。社会ではリーダー的な存在でもあります。さらに、いろいろな面で、私たち留学生を支えてくださり、国際理解と親善のため、力を尽くしてお

られます。皆様こそ、私たち若者のお手本だと思います。

私が日本に来た当初は、日本語もまったく解らず、文字通り、西も東もわかりませんでした。そんな中で、共愛女子短期大学と群馬大学大学院で日本語や、日本文化、歴史、比較言語学などを学びました。奨学生としてお世話になったのは、修士論文の完成に向けて、最も大切な時期でした。ちょうどその時、経済的にも、精神的にも、大変お世話になりました。

その後、何とか無事に大学院を修了することができ、運良く現在の(財)群馬県国際交流協会に就職することができました。これも、ひとえに皆様のお陰です。この場をお借りして、改めて心から御礼申し上げます。

幸い、卒業してからも、ロータリアンの皆様との繋がりが続いております。平成13年2月3日に2840地区米山奨学生学友会が設立されましたが、同時に、指名をいただきまして、会長となりました。

私たち学友会会員は、米山奨学生という共通の経験を持っているわけですが、それぞれ生まれた国も違いますし、育った環境も違います。現在おかれている立場もそれぞれ違います。そうした仲間同士が、この学友会に時々集まり、お互いに情報を交換することは、生活習慣の違う日本で有意義に生活していくために、とても大切な事ではないかと思えます。私たちが大変お世話になっているロータリークラブやカウンセラーの方々と交流し続けることは、とても大切なことだと思います。そのためには、まず、世話クラブの活動にも積極的に参加することだと思います。ロータリアンの皆様とのふれあいを是非大切にしてください。

中国では、昔から「水を飲む時は、井戸を

掘ってくれた人のことを思う」ということわざがあります。人からいただいた親切は、決して忘れてはいけないということを教えているものだと思います。私たち米山奨学生も、このことを大切にしていきたいと思います。私たち学友会の会員は、ロータリアンの皆様からいただいたご好意を無にしないように、これからもそれぞれの道で一生懸命頑張っていこうと思います。

私たちの学友会も、誕生してから、1年余りが過ぎました。その間、新規奨学生オリエンテーション、歓送迎会、総会、地区大会、卓話、米山セミナー、企業訪問など少しずつ活動が始まっております。しかし、課題もあります。例えば、奨学生が卒業すると、帰国する人や、第三国あるいは県外へ移る人が多く、なかなか集まりにくい現実があります。学友会活動への参加をお知らせしても、返事がないこともあります。仕事や研究が忙しくて参

加できないこともあります。一方で、米山奨学金制度についての理解が不足しているクラブもまだまだあります。そのためにも、米山奨学会、学友会や奨学生のことをもっと積極的にPRすべきだと感じております。

私たちの2840地区学友会は、会の活性化を目指して、奨学生であったということに誇りを持ち続け、互いに助けあい、信頼関係を築き、そして、社会に奉仕するボランティア精神を大切にしていきたいと思います。先輩が、後輩の奨学生に自分の経験を生かしたアドバイスや、生活に役立つ情報を提供していきます。さらに、日本の文化などを会員みんなで学ぶために学友と奨学生とロータリアンの皆さんが楽しく参加できる活動を地区と連携して考えていきたいと思います。

これからも、皆様の暖かいご支援をいただきながら、頑張りたいと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



地区大会

2002 ~ 2003 年度
国際ロータリー第 2840 地区
ごあんない

2840 地区が分離独立して、3 年目を迎えました。分離後の基盤整備も漸く軌道に乗った感があります。地区大会が行われる桐生市は、群馬県のロータリークラブの発祥の地でもあります。私達はその伝統を受け継ぎながら、しかも一方で新時代に沿ったロータリークラブの在り方を追求したいと考えております。

記念特別講演

10/19日(土)
奉仕の心
～障害児の立場から～

〈講師〉
川崎医療福祉大学長
江草安彦氏

10/20日(日)
21世紀の世界平和と
日本の選択

〈講師〉
元 国連事務次長
日本戦争予防センター会長
明石 康氏

2002年
10月19日(土)・20日(日)
桐生市市民文化会館
本・ス・ト：桐生県ロータリークラブ
コホスト：桐生ロータリークラブ
桐生県ロータリークラブ
桐生の友ロータリークラブ
桐生市城ロータリークラブ






I・M開催報告

第一分区 I・M開催報告

国際ロータリ-第2840地区
第一分区アシスタントガバナー
福田 一良

私共の第一分区の本年度I・Mは、まだ残暑厳しい中の9月1日の日曜日に開催いたしました。参加者にはたいへん申し訳ない時期の設定でしたが、このミーティングの趣旨から、新年度を迎えて日を置かずに開催することとしたため、このような時期となりました。

第一分区は前橋市内の6クラブにより構成されているため、厳密には他の分区のような複数の都市をつないだ「インターシティミーティング」ができません。そこで従来当分区のI・Mは、日頃身近なところで活動している者同士が、膝を突き合わせて話し合う場としてきました。同じ分区内で奉仕活動をする上での、各役員の間で切磋琢磨に役立ててきた経緯があります。

今回のI・Mは、これに加えて1. テマを一つにしぼる。2. 一般市民の参加を求める。ことを柱とし、実行委員会で企画を練ってまいりました。その結果、テマは矢野ガバナーが強調事項として掲げている一つ、「こども」を取り上げることとし、基調講演とパネルディスカッションの二本立てといたしました。内容も、海外の事情と国内問題の対比を図り、ロータリアン以外の一般市民の参加も求めました。

当日のミーティングは、清章司パストガバナーをゼネラルリーダーにお迎えし、ご来賓として関口隆パストガバナー、矢野ガバナーのご名代の根本正則地区幹事のご出席をいただいたの開会でした。会場が教会堂という場所柄もあり、開会セレモニーは厳粛な内に進められました。

結論から述べれば、残暑厳しい中の開催という当初の不安は、杞憂でありました。ロータリアンの登録が180名でしたので、一般市民の席を加えて300席余りを用意いたしましたところ、一般の方の参加こそ2~30名に留まったものの、ロータリアンはほぼ期待に沿う形の来場でした。各クラブの今年度を担う役員各位の、ロータリーに懸ける厚い熱意が感じられました。

「こども」主題のミーティング第一部は、国際赤十字連盟の医療スタッフとして発展途上で医療奉仕に活躍されている、前橋赤十字病院の提箸延幸先生を講師にお迎えし、紛争地でのこども達について、ご自身で撮影されたスライドによる70分の講演をいただきました。衝撃的な映像もさることながら、大人達のエゴにより弱者であるこども達がかくも多数、そして日々犠牲になっている現実を突きつけられ、会場は身じろぎをする姿さえ見られませんでした。

続く第二部のパネルディスカッションは、国内問題。こどもと教育問題を夫々別の立場から4人に論じていただき、会場内からも意見を求めました。

教育現場から高校講師の北爪隆氏。非行問題については県警本部の上席補導員の小池ヨシミ氏。家庭問題の側面から群馬いのちの電話の研修委員田中美智子氏。そして法律家として、またロータリアンの立場から森田均ガバナー・エレクトが夫々パネリストとして持論を展開しますと、県の教育委員長でもある前橋クラブの今井健介新世代奉仕委員長や一般参加者の保健福祉関係者の発言もあり、こども問題への関心の高さを覗かせ、たいへん盛り上がった討論会となりました。

今回のI・Mを通じ、我々は多くのことを

I・M開催報告

学びました。特に、こども問題への真剣な取り組みをすることが、社会やロータリーにとって焦眉の急であること。そして、我々が体を張ることが求められていることでした。

以上

第2分区 I M開催報告

I M総務委員長 片亀 歳晴

国際ロータリー-第2840地区第2分区のIMは、伊勢崎中央RCをホストとして9月8日(日)午後2時から伊勢崎市の群馬県総合教育センターにおいて、約300人の会員参加のもと開催されました。

今回のIMの運営形式は、従来の分科会形式から講演会形式に変わりました。また、テーマは教育問題に対し、ロータリーがいかに関わるかということでありましたが、講演及び質疑応答の中から、その光明が見出せたように感じています。

なお、運営形式に対する評価につきましては、ご参会皆様のご判断にまつべきものがあると思いますが、今回のIMが次年度開催の『桐生赤城RC』IM実行委員会の皆様のご参考に供すことができましたならば幸いです。

以下、「まとめ」も含め、加久アシスタントガバナ-の謝辞を引用させていただきます。

アシスタントガバナ-謝辞

国際ロータリー-第2840地区第2分区
アシスタントガバナ- 加久 裕士
国際ロータリー-第2840地区第2分区の皆様、
本日は誠に苦勞様でございます。

今回のIMにつきましては、矢野ガバナ-の意向に沿いつつ、充実感のある内容のものとして心掛けてまいりました。この趣旨を汲みつつ、ホストを務められました伊勢崎中

央RCの皆様には、心から感謝を申し上げます。

さて、矢野ガバナ-の講話及び中曽根先生のご講演につきましては、極めて短い時間ではありましたが、当面する教育問題について、示唆に富んだお話を拝聴することができました。お二方ともお話の中から垣間見られる真摯なお人柄、そして具体的かつ格調高いお言葉の一つ一つに、教育に対する情熱がひしひしと伝わってくる思いでありました。また、各クラブからの質疑に対しましては、中曽根先生からわかりやすいご回答を賜うことができ、感謝の気持ちで一杯であります。

ご承知のように、中曽根先生は文部大臣時代に『教育改革国民会議』を発足させ、17項目にわたる提言をなされたところであります。このことは今でも教育改革の大きな柱であり、現在に至るも逐次、その実現に向けてご努力を傾注されていることに対し、敬服の念を禁じ得ません。

さらに、中曽根先生のご講演の中で、とりわけ感銘深いものがありました。それは、教育の原点は家庭教育にあると言われたことでもあります。戦後の経済発展の陰で、子供達の心の問題、道徳や躾の問題等、私達、子供の親として無関心に過ぎはしなかったか。また、矢野ガバナ-の言われた不登校、いじめ、自殺、学級崩壊の問題等々は、古い時代の私にはとても想像できないことばかりであります。社会の一構成員として、また、ロータリアンの一人として、私達はいかにその問題解決への役割を果たせ得るかが問われているところでありましょう。

矢野ガバナ-は、ガバナ-に就任されるや、いち早くその点に着目され、強調事項の一つに掲げられたわけでもあります。今回のIMがその目標達成の一助になり得たならば、この上



委員会報告

ない喜びとするものであります。

結びに、中曽根先生が講演の冒頭でお触れになりましたが、先生の奥様のご尊父は、豊島東 RC に所属され、本年度、第 2580 地区のガバナ-を務められているとのことでもあります。このことから、ロータリーとは縁浅からぬ先生でありますので、今後ともよろしくご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げますとともに、先生の益々のご活躍、ご健勝を心からお祈り申し上げます。

本日、IM のプログラムが滞りなく進行できましたのも、ご参会の皆様のご協力のおかげであります。本日は大変お世話になりました。

インターアクト年次大会報告

インターアクト委員長
加藤悦朗(沼田 RC)

開催日・時間：

2002 年 8 月 17 日(土) 10:00
～ 18 日(日) 14:00

会場：群馬県吾妻郡高山村中山 6853-18

出席者：

2840 地区
14 インターアクトクラブ生徒 84 名、
顧問教師 14 名、
ロータリアン 67 名

2800 地区
5 インターアクトクラブ生徒 14 名、
顧問教師 5 名、
ロータリアン 3 名

合計 187 名

報告事項

8 月 17 日～ 18 日にかけて、群馬県立北毛青年の家で、2002 年度～ 2003 年度、国際ロータリー第 2840 地区のインターアクト年次大会が行われました。利根商業高校インターアクト

クラブ主催で、沼田ロータリークラブ提唱のもと、「身近な環境を考える」というテーマを掲げて高校生の活発な意見交換が行われました。今年は 2800 地区(山形)から地区外研修のインターアクトクラブの参加を受け、インターアクター、ロータリアン共に、刺激と感動の 2 日間を過ごさせていただきました。

企画から準備、当日の指示に至るまで、高校生の自主性に任せ、我々ロータリアンは、ほとんど見守るだけの大会運営でしたが、無事大会が終了した時、主催インターアクトクラブの生徒たちは、達成感と充実感にあふれた表情であったことを報告させていただきます。

沼田ロータリークラブ年次大会実行委員会の皆様、山形から参加いただいたインターアクター、藤川享胤 PG をはじめとするロータリアンの皆様に感謝申し上げます、委員会報告とさせていただきます。



GSE 委員会会議報告

開催日・時間：2002/8/20 18:30～20:00

会場：前橋市千代田町「松し満」

出席者：根本正則 地区幹事
正田恵一 地区副幹事
下井田秀一 地区副幹事
秋間良憲 R 財団大委員長

委員会報告

川堀良治 G S E 委員会
為谷福一 G S E 委員会

報告事項

1. G S E 受入チーム（10月15日より第2840地区へ来訪）の為のホストファミリーの選考について。桐生地区5クラブで。
2. 派遣チーム（R I 3 8 2 0地区）への参加。当地区2名の選考について、オリエンテーション実施時期について。
1名 県公募
1名 桐生
3. 受入チーム及び派遣チームの地区大会参加及びプレゼンテーションについて。
参考：第2840地区大会第一日目参加登壇その後、派遣チーム結団式及び第一回オリエンテーション予定。
為谷委員長 原案作成
4. その他
（国際奉仕担当副幹事 下井田秀一記）

国際奉仕研修セミナー



開催日・時間：
2002/8/25
13:30 ~ 18:00
会場：桐生プリオパレス
出席者：矢野ガバナー、重田パスト

ガバナー（講師）、森田ガバナーエレクト、根本地区幹事、下井田副幹事、伊能大委員長、小暮委員長、天笠委員長、他委員6名
青少年交換事務局員 吉田
一般参加者（各クラブ 会長・委員長計80名）、ガバナー事務所 近藤、織田
<セミナー>

司会 国際奉仕担当副幹事 下井田秀一
2:00 ~
開会挨拶 国際奉仕委員長 伊能 富雄

ガバナー挨拶 ガバナー 矢野 亨
地区幹事挨拶 地区幹事 根本 正則
本日の主旨・目的説明

- 国際奉仕委員長 伊能 富雄
2:20 ~ 講演（国際奉仕活動について）
パストガバナー 重田 政信
3:10 ~ 休憩
3:20 ~ 青少年交換について
青少年交換委員長 天笠 博
3:50 ~ W C S について
世界社会奉仕・友情交換委員長
小暮 高史
4:20 ~ 質疑応答
4:40 ~ ガバナーエレクト挨拶
ガバナーエレクト 森田 均
4:43 ~ 閉会挨拶
国際奉仕委員長 伊能 富雄
<懇親会>
5:00 ~ 開会 乾杯
6:30 閉会
（国際奉仕担当副幹事 下井田秀一記）

第1回米山奨学委員会会議報告

開催日・時間：

2002年9月5日 午後4時~5時
会場：矢野ガバナー事務所 会議室
出席者：

矢野亨ガバナー、横山公一米山奨学委員長、野辺昌弘米山増進委員長、堀口靖之増進委員、鈴木海祐増進委員、戸鹿野栄一次年度副幹事、根本正則地区幹事、片貝良一地区副幹事

議事

- 米山奨学委員会年間スケジュールについて審議し、以下のように決定した。
2002.9.30 指定校に指名された大学に対する説明会（東急イン）
2003.1.5 選考会打ち合わせ会議



委員会報告

(ガバナー事務所)

- 1.25 選考会準備
- 1.26 選考会 (東急イン)
2. 世話クラブ選定、カウンセラーのお願い
- 3.2 奨学生歓送会、米山セミナー (東急イン)
- 5.25 奨学生オリエンテーション (東急イン)
- 6.15 米山学友会総会 (東急イン)
- 6.29 引き継ぎ会
(米山奨学担当副幹事 片貝良一記)

IT委員会報告

IT委員 川島 理 (渋川みどり RC)

開催日・時間:

2002年9月9日(月)19時~

出席者: IT委員 金井 修 川島 理
地区副幹事 羽鳥 隆

- 1、地区ドメインの固定について
清年度のドメインを使用することが、最も良い選択である。
清ガバナー事務局閉鎖に伴い、ドメインを一旦破棄していただき、山崎年度に、再取得してもらう事を進言する。
- 2、今後の活動方針
ドメインが固定されるのが前提
*ドメイン取得後、関口年度・清年度のHPを移植する。
矢野年度以降も順次移植する。
*地区内の行事の報告書を電子化してもらい、HP内に、文庫を作り、情報の蓄積を図る。
地区協議会・IM・地区大会など
- 3、IT委員会の増員について
金井・小林 各委員にて相談の上、森田年度に推薦する

若き日の貴重な体験

国際ロータリー第2560地区 2002-2003
ガバナー 佐野 孝

夏期交換プログラムで、ドイツへ行かれた皆さま方が多くの成果を得て、全員無事に帰国されましたことを心から喜んでおります。

ドイツは、伝統、文化、学問の分野で、それぞれに極めて特異な、且つ、力強い獨創性をもった国であります。

私にとってもドイツは、かつての大学生の頃からのあこがれの国であり、また、先年ドイツの病院の視察に参ったことがありますので、今回皆さま方が彼の国に滞在され、多くのことを体験し学ばれたことを私のことのように身近に感じ、且つ、嬉しく思います。

若い皆さま方は、いま何ごとに対しても限りない希望に燃え、感性のもっとも豊かな人生のひと時であります。この時にあたり、彼の国で体験された数々を自分たちの大切な糧とされ、また、それ等を感謝を持ってこれから周囲に分かち与えられんことを希望します。そして、もっともっと更に視野を広げ、研鑽を積まれ、将来大きく大成されんことを祈ります。

また、ドイツから来日された際のホストファミリーの皆さま方も、いろいろ大変なお骨折りを頂きました。本当に有り難うございました。

今回の交換留学にあたり、尽力下さいました担当ロータリアンの皆さま方に心から感謝いたし、また、この成果を次年度の担当者よろしくお伝え頂きたいと思っております。
皆さま、本当にご苦労様ございました。

新 会 員 紹 介



霜田 昌徳

館林ロータリークラブ
 入会日 平成14年7月5日
 職業分類 コンビニエンスストア
 勤務先 (有)清水屋商店
 役職 社長
 推薦者 阿部員可 田部井孝一



川島 克彦

前橋西ロータリークラブ
 入会日 平成14年8月2日
 職業分類 外国為替
 勤務先 (株)東和銀行
 役職 取締役前橋営業本部長
 兼本店営業部長
 推薦者 中村 宏



宮下 直

前橋西ロータリークラブ
 入会日 平成14年7月5日
 職業分類 ゴルフクラブ
 勤務先 (株)赤城国際CC
 役職 代表取締役
 推薦者 田村誠夫



北澤 俊春

前橋西ロータリークラブ
 入会日 平成14年8月2日
 職業分類 教育
 勤務先 中央総合教育サービス(株)
 役職 取締役副社長
 推薦書 福田一良



鈴木 勲

前橋ロータリークラブ
 入会日 平成14年8月27日
 職業分類 民間放送
 勤務先 群馬テレビ(株)
 役職代表 取締役社長
 推薦者 吉田恭三



丹波 博之

前橋ロータリークラブ
 入会日 平成14年7月23日
 職業分類 医薬開発
 勤務先 キリンビール(株)
 医薬開発研究所
 役職 総務部長
 推薦者 曾我隆一



田村 敏夫

前橋ロータリークラブ
 入会日 平成14年7月23日
 職業分類 電信電話
 勤務先 東日本電信電話(株)
 前橋支店
 役職 支店長
 推薦者 堤 公男



高田 和之

桐生赤城ロータリークラブ
 入会日 平成14年9月3日
 職業分類 繊維資材販売
 勤務先 高田(株)
 推薦者 園田 徳司



吉田 喜一

渋川ロータリークラブ
 入会日 14年8月8日
 職業分類 信用金庫
 勤務先 北群馬信用金庫
 役職 理事長
 推薦者 田村優



深谷 研悟

渋川ロータリークラブ
 入会日 14年8月22日
 職業分類 鉄鋼製造
 勤務先 大同特殊鋼(株)
 渋川工場
 役職 工場長
 推薦者 堀口靖之



謹んでご冥福をお祈りいたします



堀口 吉七殿

1908年10月20日生・享年93歳
 渋川ロータリークラブ
 事業所:(株)ホリグチ 取締役相談役
 ロータリー歴:1957年4月11日 渋川RC発会式(チャーターメンバー)
 1960~61年 渋川RC 会長
 1976年11月 ポールハリスフェロー
 1994年 1月 米山功労者
 1996年10月 ベネファクター

.....

(財)ロータリー米山記念奨学会ニュース
 【ハイライトよねやま 30】

2002年9月12日発行

1. 米山とロータリー財団の協力関係に新たな息吹 ~ 理事会・評議員会報告

2002年度第1回理事会と評議員会が、8月30日(金)東京品川・ホテルパシフィックで開催されました。全国35地区から理事、評議員114名が参加しました。最初に理事会が開かれ、板橋敏雄RI理事の挨拶と今年12月、大阪で開催されるロータリー研究会で米山奨学事業がテーマとして取り上げられる経緯について説明がなされました。

RIの会合では初めてのことであり、ロータリー財団との協力関係“車の両輪”が今後どのように展開されるか注目されます。

続いて理事会と評議員会の合同会議が開かれ、新しい評議員の委嘱が行われました。主な議案でありました2001年度の事業報告及び会計報告を全員異議なく承認しました。

年々減少します寄付金に対しては、制度のさらなる改善と、寄付増進の方策を検討することなどの意見が述べられました。そして、米山奨学事業の意義を理解し、ロータリーの精神に基づいて、日本とアジアを初めとする

諸外国の“架け橋”となる人材の発見・育成に一層の努力をすることを改めて確認しました。

昼食会では、今回特別参加をした韓国米山学友会会長・安熙道氏と台湾学友会会長許邦福氏の海外学友の活動報告があり奨学事業の成果の一端を知る機会となりました。

最後に、任期終了にともなって退任される小林亮理事(2780地区)への感謝状の贈呈が行われました。またクラブ創立特別寄付の96クラブと7千万円以上達成クラブへ感謝状を贈って、そのご努力に感謝の意を表しました。(事務局長・宮崎幸雄)

2. 寄付金速報~よねやま月間に向けて~

8月末の寄付金収入の累計額は3億1千6百万円。前年同期と比べ8.6%、約3千万円の減少となりました。普通寄付金は前年同期比7.9%減、特別寄付金は9.9%の減少です。大変厳しい状態ではありますが、来月のよねやま月間に向けて各地区ガバナー・理事・米山奨学委員長、クラブ会長、クラブ米山委員長の方々は、是非とも地区・クラブで寄付増進の広報活動をよろしく願い申し上げます。(大庭)

3. 米山事務局の職員採用について

このたび、職員の羽白 薫が8月末をもって退職することとなりました。

その欠員補充をリクルートのWebサイトによる一般公募で行ったところ、1名の採用に対し200名を超える応募がありました。

今、若者達に人気がある職業で非営利団体が上位になってきました。就職難の現状も反映していますが、米山奨学事業も高い関心があることはこれによっても明らかです。

採用が決まったのは、井川 勲です。30歳の新進気鋭の若者です。各地区ガバナー事務所等、これからお世話になりますのでよろしくお願いします。(志村)

4 届いてますか? ~ 米山月間用資料の活用をお願い

10月は米山月間です。月間に先立ち、9月9日に全ロータリー・クラブ事務所へ、下記の資料をお送りしました。追加送付もできますので、米山奨学会事務局までお問い合わせください。

財団法人ロータリー米山記念奨学会

事務局長 宮崎幸雄

編集担当 大庭・三宅

Tel : 03-3434-8681 Fax : 03-3578-8281

問い合わせメール :

highlight@rotary-yoneyama.or.jp

米山記念奨学会ホームページ :

<http://www.rotary-yoneyama.or.jp>

..... 文 庫 通 信 (180号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。クラブの事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

地区大会特別講演より

「いま日本、日本人を考える - 欧米垂比較の中で - 」 五十嵐公利 2002 14 p (D.2730 地区大会)

「日本は再生する」 加納時男 2002 17 p (D.2840 地区大会)

「21世紀の世界の世界 - その問題点と展望」 明石康 2002 5 p (D.2830 地区大会)

「日米中口」四重奏の不協和音」 宮本信生 2001 9 p (D.2500 地区大会)

「IT革命によって変わるビジネスと生活」 軽部征夫 2002 20 p (D.2720 地区大会)

「21世紀の世界と日本 - 地方から見て - 」 長谷川慶太郎 2002 21 p (D.2760 地区大会)

「日本経済のゆくえ」 水谷研治 2002 16 p (D.2630 地区大会)

「福祉はわが家から」 西川きよし 2002 7 p (D.2670 地区大会)

[上記申込先: ロータリー文庫(コピー)]

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7階

TEL. (03) 3433-6456 FAX. (03) 3459-7506

<http://www.rotary-bunko.gr.jp>

開館 = 午前10時 ~ 午後5時 休館 = 土・日・祝祭日

第2840地区 2002年8月出席報告

クラブ数	会員数				
	8月初	8月末日	純増減会員数	女性会員数	当月平均出席率
46	2,369	2,377	8	58	87.88

クラブ名	例会数	出席率 (%)	会員数			
			月初	月末	増減	女性
第1分地区						
前橋	2	94.39	99	98	-1	0
前橋西	4	98.57	68	70	2	0
前橋東	4	91.57	72	72	0	0
前橋北	2	97.54	63	63	0	2
前橋南	3	95.74	40	40	0	0
前橋中央	3	90.99	43	43	0	5
合計(6クラブ)		94.80	385	386	1	7
第2分地区						
桐生	3	76.27	71	71	0	0
伊勢崎	3	89.06	74	74	0	0
桐生南	3	85.18	53	53	0	2
群馬境	4	86.70	51	51	0	3
桐生西	4	91.84	68	68	0	0
伊勢崎中央	3	92.66	61	62	1	0
伊勢崎南	3	98.41	43	42	-1	1
桐生中央	4	84.20	41	41	0	5
伊勢崎東	3	88.03	39	39	0	1
桐生赤城	3	94.45	43	43	0	2
合計(10クラブ)		88.68	544	544	0	14
第3分地区						
高崎	3	89.09	76	77	1	0
高崎南	3	93.15	74	75	1	3
富岡	3	96.91	57	57	0	3
藤岡	4	91.67	59	59	0	2
安中	3	71.29	36	36	0	0
高崎北	3	85.80	64	64	0	0
藤岡北	3	78.42	20	20	0	1

クラブ名	例会数	出席率 (%)	会員数			
			月初	月末	増減	女性
第3分地区						
高崎東	4	95.00	63	63	0	0
富岡中央	4	83.16	50	49	-1	0
高崎ソフオー	4	86.11	52	52	0	3
碓氷安中	4	67.50	30	30	0	3
高崎セントラル	3	82.04	43	44	1	0
藤岡南	4	83.83	39	39	0	9
合計(13クラブ)		84.92	663	665	2	24
第4分地区						
太田	4	91.93	98	99	1	0
館林	4	88.43	60	60	0	0
大泉	3	90.40	53	53	0	2
太田西	3	82.93	41	41	0	1
太田南	3	82.00	56	56	0	0
館林西	4	88.67	23	23	0	0
新田	3	93.33	37	37	0	0
館林東	3	88.87	32	32	0	1
太田中央	4	81.95	36	36	0	3
館林ミレニアム	4	89.12	31	31	0	0
合計(10クラブ)		87.76	467	468	1	7
第5分地区						
渋川	4	96.09	73	75	2	2
沼田	3	87.22	60	60	0	0
草津	4	89.50	24	26	2	1
水上	4	63.25	9	9	0	0
中之条	3	88.46	30	30	0	1
沼田中央	4	96.30	67	67	0	0
渋川みどり	3	84.44	47	47	0	2
合計(7クラブ)		86.47	310	314	4	6

公式訪問・行事予定

10月の公式訪問予定

10月 1日 館林西
 10月 3日 太田
 10月 4日 太田中央
 10月 8日 太田南
 10月 16日 新田
 10月 23日 太田西
 10月 24日 館林ミレニアム
 10月 25日 群馬境
 10月 30日 館林東
 10月 31日 草津

10月の行事予定

10月5・6日 ライラ研修
 10月7日 R財団委員会
 10月12・13日 D2560地区大会
 10月18・19・20日
 D2840地区大会

10月のロータリー・レートは
 1ドル 120円です